



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.

15

風の壁をも貫く飛距離と
荒れた状況下でも粘り続ける
泳ぎはクラス最高峰!



NEW

LEVIN
HEAVY

レビンヘビー 95mm 28g 1,600円+税

GREED ゴールド

70mm 30g 830円+税
76mm 40g 880円+税



NEW

突き詰めた基本性能は、
強欲なまでに
魚を捕獲する!



弊社ルアー解説動画 WEB にて好評配信中です!

ヘビーウエイト版の登場で、フィールドが広がったレビン

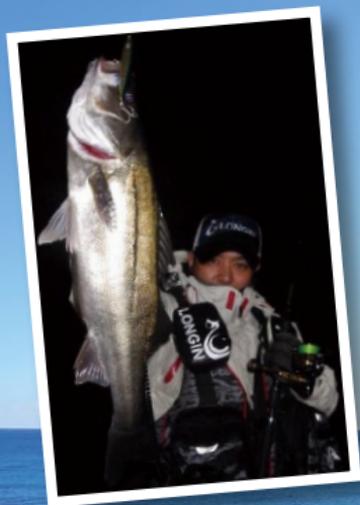
レビンヘビー28g

新登場

NEW ARRIVAL!



新モデルを開発する上で、求められた性能とは何か？レビンヘビーに秘められたポテンシャルを、開発段階から実釣テストに参加した二人のテスターが解説する。



Text by 遠藤真一、対馬世人

遠藤真一が求めたレビンヘビー

ジャンルで言えば、シンキングペンシルにあたるレビン。特徴であるフィニキールがもたらす粘りのある泳ぎ。これこそがレビン最大のストロングポイントで、外洋で活かすシーンを探索してきた。

外洋の波、風に負けないシンキングペンシル、多魚種への有効性という点からレビンヘビー 28g に求めたものは、①飛距離、②強度、③カラー、④性能の継承の4点である。

①と④については、重さを増せば単純に飛距離は伸びそうなものだが、性能を失っては本末転倒。細部までこだわり抜きレビン 20g の性能を継承することに成功した。②は各アイ周りの接着面の補強、ワイヤーを長くするなど内部構造を強力にする事で外洋の使用に対応。③はヒラメや青物をターゲットにしたカラーをラインナップに加え、攻略の幅を広げた。

昨年はレビン 20g での磯の釣果は目を見張るものがあった。特にヒラズキにおいてはありがたいことに絶対的1軍ルアーに選ぶアングラーも

LEVIN HEAVY

28g のウエイトのレビンヘビーは、さらなる飛距離と粘りのある泳ぎをするモデルだ。



カラーはシーバスだけでなく、青物やヒラメをターゲットにしたカラーもラインナップ

多い。その理由は、シャロー帯で使うのには非常に適したジャンルのルアーだからだ。外洋で多く使われているフローティングミノーは巻きの釣り。プリプリと泳いでアピールは高く、早い（ヤル気のある）魚を獲るのにはよいだろう。しかし、スイッチの入りきらない魚にはどうか？

巻かなければ押し波に揉まれ破綻してしまうし、ルアーの見せたくないシーンを魚に見せることを私は嫌う。河川などと違って難しいのは波の中でいかにスローに魅せるかだ。だからこそシンキングペンシルでスローに誘う釣りが成立するルアーが欲しかった。

なぜ外洋でシンキングルアーなのか



クラス最高峰の飛距離は、どんな状況にも幅広く対応する。

外洋で私が好むルアーのほとんどが、シンキングタイプのルアーだ。一度水をまよえばスローにアピールしやすいことが、その理由の大部分を占める。

LONGIN で磯にテストに行ったときのことだ。沖のシモリを左から右に舐めるようにウインドドリフトで流していくのを見た太田君が、「こんなにスローに巻くんですか？」と聞いてきたのを今でも覚えている。

あの時、ミノー系では風にラインを引かれバタバタと泳ぎすぎてしまうのでミノーの選択肢はなかった。かと言って、既存のシンペンでは急激に浮き上り表層を走ってしまう。そんな荒れた状況下でレビンの『粘り』が、レンジをキープしつつも暴れるこ

となく漂わせることが可能になったのだ。

さらに、レビンヘビー 28g の登場で飛距離がグンと伸び、強風下でも負けない矢のような遠投性能を実現したことで、攻略できる幅が広がったのである。

シンキングペンシルの種類は膨大であり、特徴も様々だ。しかし、その殆どが浮き上がりが早く表層での使用が多くなるものだ。レビンヘビー 28g はその下のレンジをキープしやすく設定してある。もちろん、既存のシンペンのレンジも引けるが、その下のレンジを簡単に引けるのはとても大きな武器となる。悪天候なら尚更その性能の違いを強く感じてもらえるだろう。

サーフのヒラメの攻略

昨今のルアーは飛距離も出て使いやすい。が、そこが盲点でもある。

集中力が途切れたときに投げているルアー……。だいたい気を抜いても気持ちよく飛ぶだけで選んでいませんか？ ぶっ飛ばして手前で腹を擦って早めの回収、そしてフルキャストの繰り返し。多くのアングラーの気持ちは沖に向いていないだろうか。

周りより遠くに飛ばすことでストレスの発散も含め、より探った感もあるが、実は大事な手前のシャローをキッチリ探れていなかったのでは？ と、



レビンヘビー 28g は、ヒラメに効くカラーをラインナップ。何が起きるかわからない外洋の海を幅広く攻略可能だ。

心当たりのある人もいるだろう。飛距離の時代と言っても過言ではない昨今、手前を疎かにする傾向にあるように感じる。

もちろん、レビンヘビー 28g も飛距離にはこだわっている。既存のシンペンでのサーフの波足での使

いづらさも、レビンのフィンキールがもたらす恩恵である『粘り』で緩和され、遠浅のサーフであっても魅せて引き通せるのはアングラーにとって強い武器になることは間違いない。

水温が急激に下がり始めた年末、年始の釣行はテストを兼ねてサーフゲーム主体となった。

第一陣のアングラーが帰りだした日中、人気のサーフにエントリーするものの、活性が低く、どこも散々叩かれた状況だったが、ヤル気のある魚だからこそシャローに挿してくる、そんな魚を狙った。

普段は掘れているエリアを中心に狙うのだが、厳寒期で気温も水温も落ち続けるこの頃は、マヅメを外す位でよい。そしてミノーを引くにはストレスになるようなシャローを、レビンヘビー 28gで引いてくる。

すると、ドスツと押さえ込む様なバイト！ すかさずアワセを入れると、我慢出来ずに浮き上り踊り出すヒラメ。この瞬間がたまらなくよい。アワセが決まれば慌てることはない。波のタイミングを見てズリ上げる。高級魚を手軽に釣れるサーフからのヒラメ釣り。ローケーションもよく、気持ちのよいサーフゲームが老若男女問わず人気があるのも頷ける。



ヒラメに効果抜群！ 粘り強い泳ぎのお陰で波打ち際のシャローをじっくり攻略できるのがレビンヘビー 28gの強みだ！

大人気で移動も出来ないほどシーズン中は込み合うサーフで、貴重な一枚を獲るにはぜひともシャローを大事にしてもらいたい。特に厳寒期のヒラメ攻略時にこそ重要だ。

サーフのポイントとして河口、離岸流、ブレイクやヨブ等ある中で、足元の掘れた場所がある。こんな場所を好んでエントリーするのだが、真逆の日中のシャローでヒラメを連発してきた。また、サーフや磯では何が起るかわからない。時にブリやヒラマサ等のブルーランナー、磯の王者ヒラスズキ、真鯛やフラットフィッシュのチャンスも訪れる。目の前で起こるすべてのことに対応し、可能性があるならすべての魚をキャッチしたいのがアングラーの性というもの。

磯、サーフ、荒れた状況下での攻略には欠かせない飛距離と粘り強い泳ぎの絶対条件を完璧なまでに搭載したシンキングペンシル、レビンヘビー 28g であれば、それも実現可能だろう。

対馬世人が求めたレビンヘビー

私がレビンへ求めた性能は「唯一無二の操作性と飛距離の融合」である。荒天下でも浮き上がりづらく、既存ルアーと比較して一枚下のレンジをキープできること。そして同クラスのルアーの中でトップクラスの飛距離を手に入れることだ。





ヒラスズキ、ヒラマサなど大型魚を追い求めるアングラーにも使ってもらいたい。

レビンヘビー 28g の開発に携わるにあたり「荒天化でも浮き上がりづらく、既存ルアーよりも一枚、いや二枚下のレンジを、シンキングペンシル特有のナチュラル（暴れない）なアクションで誘えるルアーが欲しい」とビルダーの伊藤氏に訴え続け、完成したのがレビンヘビー 28g である。

①操作性

多くのヘビーシンキングペンシルの弱点は「浮き上がりやすく、レンジキープ力に欠ける」こと。実戦に当てはめて考えると「風や波に弱く、外的要因によってすぐにアクションが破綻してしまうので、使用シチュエーションが限られてしまう」ということになる。

そこでレビンヘビー 28g が徹底的に追い求めたのは、荒天下でも浮き上がりづらく、一枚下のレンジをしっかりとしたアクションで泳ぎきる性能だ。

これが完成したことにより、ラインコントロールが非常に容易になり、荒天下での操作性が大幅に向上。レビン 20g の特有の「粘り」継承し

【ヒラスズキへの有効性】

有効性とは、紙面上のウンチクではなく釣果が全てである。アクションが完成した昨シーズン、レビンヘビー28gでは、ランカーヒラスズキ2本を含め、数多くのヒラスズキをキャッチし、その有効性を証明することができた。

自分自身、これまでと比較して、圧倒的にヘビーシンキングペンシルでキャッチしたヒラスズキが増えたことを実感していると同時に、改良を繰り返したルアーのアクション・操作性は間違いなく有効だと確信している。



つつ、より外洋を意識したタイトなスイングアクションが完成した。

②飛距離

飛距離については最後の最後まで最善を模索した。

ヒラスズキに対して圧倒的な釣果を出してきた「アクション」に、どう「飛距離」を融合させる事ができるのか。しかし、飛距離重視になり、アクションが変わってしまっただけでは本末転倒。そもそもレビンの良さは何なのか。何が他と違うのかについて、日々、伊藤氏と激論を交わしていたことも記憶に新しい。激論の中で伊藤氏が発した「その発想は俺の常識にはない設計。だけど作ってみる!」といった一言から実現できた「理想のアクション」と「飛距離」の融合。

まさに、開発とスタッフの連携が厚いLONGIN だからこそ完成した一品だと確信している。



遠藤真一 (えんどう・しんいち)

LONGIN.フィールドテスター。千葉県房総地域一体を知り尽くし、膨大な経験値と卓越した技術を併せ持つ、超実力派アングラー。シーバスだけでなく、青物やオフショア、雷魚など様々な釣りも得意。



対馬世人 (つしま・せいと)

LONGIN.フィールドテスター。磯と河川を中心に、驚異的な考察力と異次元の体力でヒラスズキ、磯マル、青物、河川のスーパーランカーを追求める若手実力派の超新星!

LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.4

弊社製品取扱店にて絶賛配布中です！



今号はさらに大増ページをしたロンジンマガジン第4号！

新製品であるグリッドとレビンヘビー 28g の解説はもちろん、弊社テスター陣によるベイト別攻略法や河川での黒鯛攻略など記事も満載！ もちろんロンジンルアー全種のカタログ付き。巻末には全ルアー実寸サイズでも掲載！

ボリュームアップしたロンジンマガジンは、もちろん今回も無料配布！ 弊社ルアー取扱店全店にて配布していますので、店頭に無かった場合は店員さんに聞いてみて下さい！（弊社在庫があれば、お店へ送らせていただきます）。

ロンジンマガジンのご意見・ご感想もお待ちしております（HP アンケートよりお送り下さい）。

ロンジンマガジン Vol.4

配布価格：¥0（フリーペーパー）

版型：A5 版 52 ページオールカラー

発行：株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
（数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい）



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.16

発行日：2015年3月9日

株式会社 LONGIN.